

独和辞典の重要語彙の比較

黒 田 廉

富山大学人文学部紀要第 69 号抜刷

2018 年 8 月

独和辞典の重要語彙の比較 *

黒 田 廉

1. はじめに

黒田（2016）では、独和辞典の重要語彙のうち、上位おおよそ 2000 語付近までの語彙について、語彙頻度表の語彙と比較し、両者の違い、学習的観点からみた頻度による語選定の問題を述べた。

本稿では、語数を限定せず、各独和辞典の重要語彙について、頻度表の語彙も含めて、数量的な面から比較を行う。各辞書の重要語彙にはどの程度共通する語があるのか、頻度表の語彙とはどの程度異なっているのかを扱う。

本調査は、独和辞典の重要語指定の実態を明らかにし、より有効な重要語指定を行うための研究の一環を成す。

2. 比較の対象

対象は、黒田（2016）でも取り上げた次の 5 点の独和辞典の重要語彙および 2 点の語彙頻度表の語彙である。特定の辞書を批判するのが目的でないため、以下、具体的な辞書名は伏し、A～E のアルファベットで示す。Jones/Tschirner(2006)は、„JT“と略す。また、頻度表に記載されている語、語彙も、煩わしさを避けるために、辞書の場合と同様にそれぞれ「重要語」「重要語彙」とよぶ。

兒玉彦一郎著『ドイツ語ポケット辞典』改訂版 研究社 2013 年 第 1 刷

在間 進他『アクセス独和辞典』第 3 版 三修社 2010 年 第 1 刷

在間 進編『新キャンパス独和辞典』郁文堂 2011 年 第 1 刷

根本道也他『アポロン独和辞典』第 3 版 同学社 2010 年 第 1 刷

濱川祥枝他『クラウン独和辞典』第 5 版 三省堂 2014 年 第 1 刷

Jones, R. L./Tschirner, E.(2006): *A Frequency Dictionary of German*. London: Routledge.

DeReWo. 31. 12. 2012. Grundformliste. Institut für Deutsche Sprache, Mannheim.

表 1 は、各辞書、頻度表の重要語数をまとめたものである。上段「語数（実数）」は、上記の独和辞典、頻度表の重要語を実際に数えた数である。独和辞典および JT の重要語はすべて

* 本稿は、科学研究費補助事業基盤研究（C）（一般）（平成 29 年～平成 32 年）（課題名：「欧州言語共通参照枠対応ドイツ語語彙研究」課題番号：17K02923 研究代表者：黒田廉）の助成を受けたものである。

含めたが、¹⁾ DeReWo のみ重要語数が 326946 語と膨大であるため、数を限定した。重要語がもっとも多い辞書 E の 7115 語に近くなる語群を選び、6650 語となった。²⁾ 重要語数は最小で 2600 語あまり、最大で 7000 語強とかなり幅がある。

表 1：各辞書、頻度表の重要語数

	辞書 A	辞書 B	辞書 C	辞書 D	辞書 E	JT	DeReWo
語数（実数）	2639	2959	5346	5462	7115	4132	6650
語数（基準統一後）	2606	2939	5141	5396	6917	4086	6582

辞書、頻度表によって使われている語形は異なるため、黒田（2016: 5f）でも採用した次の基準によって、語形を統一した。³⁾ 表 1 下段にあるのが、語形統一後の語数である。辞書 C のように、変化形を多数重要語にしているため、数値の減少がかなり大きいものもあれば、辞書 B のように、変化形が少なく、数値の減少が小さいものもある。⁴⁾

語形統一の基準

- ・ 文法上、変化形と考えられる場合は一つの形で代表させる（たとえば、ich, mir, mich は語形が大きく異なるが、ich のみを見出し語として取り上げる）。動詞であれば、不定詞、名詞であれば単数 1 格の形を基本形として比較対象とする。
- ・ 語形（綴り）を比較する語形とする。したがって、同音（同綴）異義語も、綴りが同じであれば、一つとして扱う。
- ・ 略語も比較の対象とする。
- ・ 変化形・派生形（現在分詞・過去分詞・名詞化など）を、比較対象として扱うかどうかは既存の独独辞典⁵⁾を参照して決定する（たとえば bekannt, Bekannte）。
- ・ 名詞の女性形については男性形のもとにまとめるものとする。
- ・ 前置詞と定冠詞の融合形については前置詞のもとにまとめる。

1) JT は 1 ～ 4034 位までのリストであるが、同一順位に複数の語を挙げているため、順位よりも大きい数となっている。また、一部、黒田（2016）とわずかに異なる数になっているが、再度点検し、修正を施したものである。

2) DeReWo は頻度の近い語群を「頻度クラス」(Häufigkeitsklasse) にまとめており、頻度クラス 0-13 に相当する。

3) 語形の統一に当たっては、岐阜経済大学山田善久氏開発の Tecely を使用した。「岐阜経済大学山田善久ソフトウェア研究工房ダウンロードのページ」(<http://staff.gifu-keizai.ac.jp/~yamada/>) 参照。

4) 辞書による重要語の語形の違いについては、黒田（2015）参照。

5) Duden. Deutsches Universalwörterbuch. 7. Aufl. Mannheim 2011, Langenscheidt Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache. Berlin. 2010, PONS Großwörterbuch Deutsch als Fremdsprache. Stuttgart. 2011 の 3 点。

- ・ 正書法は、新正書法（Duden2006以降）によるものとし、表記上のバリエーションがあるもの（たとえばFotografieとPhotographie）はDudenの推奨形・非推奨形の記述に従い、推奨形の方を基本形とする。

語形は統一したが、重要語数の差が大きいため、そもそも正確な比較はできない。7点の辞書あるいは頻度表のうち、何点にどの程度共通する語があるか、また、1つの辞書あるいは頻度表の重要語彙に対して、他辞書あるいは頻度表の重要語彙がどの程度含まれるかを調査することによって、おおよその傾向をとらえることとする。

3. 辞書および頻度表の重要語彙の一致

計7点の辞書あるいは頻度表の重要語彙の重なり具合は、表2のようにまとめられる。7点にあるすべての重要語は、異なり語数にして9594語である。「対象数」にある数は、比較対象とした辞書あるいは頻度表の数である。「共通する語数」にあるのは、「対象数」にある数の辞書あるいは頻度表には共通しているが、他にはない重要語の数である。「割合」欄にあるのは、共通する語数が異なり語数9594語に占める割合である。たとえば、「対象数6、共通する語数794、割合8.3%」の場合は、7点のうち、6点にのみ共通する語は794あり、異なり語数9594に占める割合は8.3%になるということである。対象数「1」にある「共通する語数」は、1点にのみ存在する重要語数という意味になる。辞書あるいは頻度表ごとの内訳も示した。

表2：7点の辞書あるいは頻度表と重要語彙の一致

対象数	共通する語数	割合
7	1712	17.8%
2～6	5108	53.2%
{ 6	794	8.3%
5	865	9.0%
4	822	8.6%
3	1279	13.3%
2	1348	14.1%
1	2774	28.9%
{ (辞書B)	15	0.2%
(辞書A)	18	0.2%
(辞書C)	30	0.3%
(JT)	41	0.4%
(辞書D)	202	2.1%
(辞書E)	874	9.1%
(DeReWo)	1594	16.6%
異なり語数	9594	

7点すべてに共通する重要語は1712語である。重要語が最少なのは辞書Aで2606語であるから、それより約900語、約35%少ない数である。単純にサイズの大きい重要語彙にサイズの小さい重要語彙がそのまま含まれているわけではないことがわかる。しかし、7点すべてに共通している訳ではないが、複数の辞書あるいは頻度表に記載されている重要語は多く、半分以上になる。7点すべてに共通しているものとあわせれば、7割以上の重要語は複数の辞書あるいは頻度表に採用されている。1点にのみある重要語は、(当然ではあるが)重要語彙サイズが大きい辞書に多い。ただし、一番大きい辞書Eよりも、2番目のDeReWoの方が、そのような語はずっと多くなる。DeReWoの重要語彙には他とはかなり異なる語が入っていることがうかがわれる。また辞書Cと辞書Dは、重要語彙サイズが近いが、辞書Cにのみ見出される重要語は30のみであるのに対し、辞書Dには202もあり、重要語指定にやや独自性が見受けられる。

次に、辞書あるいは頻度表の重要語彙について、2者間で一致する程度を比較した結果について述べる。表3～9は、7点の辞書あるいは頻度表それぞれについて、他の6点の辞書あるいは頻度表と1点ずつ、一致する重要語数、一致語数の割合を示したものである。表中の「比較対象」は、比較する重要語彙を含む辞書あるいは頻度表である。「一致語数」は「比較対象」にある全重要語のうち、表冒頭に挙げた辞書あるいは頻度表と一致する重要語の数である。「重要語数」は「比較対象」の辞書あるいは頻度表の重要語総数である。「一致率」は、「重要語数」に対する「一致語数」の割合、すなわち、「比較対象」の重要語彙が、表冒頭の辞書の重要語彙に含まれている割合を表している。各表は、一致語数の多いものから順に並べてある。

表3：辞書A（重要語数：2606）との比較

比較対象	一致語数	重要語数	一致率
辞書E	2564	6917	37.1%
辞書C	2474	5141	48.1%
辞書D	2345	5396	43.5%
DeReWo	2173	6582	33.0%
辞書B	2054	2939	69.9%
JT	2011	4086	49.2%

表4：辞書B（重要語数：2939）との比較

比較対象	一致語数	重要語数	一致率
辞書E	2769	6917	40.0%
辞書D	2671	5396	49.5%
DeReWo	2657	6582	40.4%
辞書C	2622	5141	51.0%
JT	2552	4086	62.5%
辞書A	2054	2606	78.8%

表 5：辞書 C（重要語数：5141）との比較

比較対象	一致語数	重要語数	一致率
辞書 E	5075	6917	73.4%
辞書 D	4497	5396	83.3%
DeReWo	3607	6582	54.8%
JT	2988	4086	73.1%
辞書 B	2622	2939	89.2%
辞書 A	2474	2606	94.9%

表 6：辞書 D（重要語数：5396）との比較

比較対象	一致語数	重要語数	一致率
辞書 E	5019	6917	72.6%
辞書 C	4497	5141	87.5%
DeReWo	3852	6582	58.5%
JT	3149	4086	77.1%
辞書 B	2671	2939	90.9%
辞書 A	2345	2606	90.0%

表 7：辞書 E（重要語数：6917）との比較

比較対象	一致語数	重要語数	一致率
辞書 C	5075	5141	98.7%
辞書 D	5019	5396	93.0%
DeReWo	4233	6582	64.3%
JT	3350	4086	82.0%
辞書 B	2769	2939	94.2%
辞書 A	2564	2606	98.4%

表 8：JT（重要語数：4086）との比較

比較対象	一致語数	重要語数	一致率
DeReWo	3957	6582	60.1%
辞書 E	3350	6917	48.4%
辞書 D	3149	5396	58.4%
辞書 C	2988	5141	58.1%
辞書 B	2552	2939	86.8%
辞書 A	2011	2606	77.2%

表 9：DeReWo（重要語数：6582）との比較

比較対象	一致語数	重要語数	一致率
辞書 E	4233	6917	61.2%
JT	3957	4086	96.8%
辞書 D	3852	5396	71.4%
辞書 C	3607	5141	70.2%
辞書 B	2657	2939	90.4%
辞書 A	2173	2606	83.4%

表からは以下のことが言える。まず、比較する重要語彙サイズが大きいほど、一致語も多くなる。表 3～6 が示すように、すべての辞書で一致語数が最大となるのは、重要語がもっとも多い辞書 E と比較した場合である。次は辞書 C または D と比較した場合で、表 3～6 にみられるように、2 番目または 3 番目に位置する。一致語数が最小となるのは、重要語がもっとも少ない辞書 A との比較の場合である（表 4～7）。

次に、大きいサイズの重要語彙には、小さいサイズの方にある重要語は大部分含まれている。

表7が示すように、辞書Eは他辞書の重要語彙を含む割合が9割以上になる。辞書C, Dも、表5, 6のように、より重要語彙サイズが小さい辞書A, Bの9割前後の重要語を含んでいる。とくに、辞書A, C, Eはより重要語彙サイズの大きい方に小さい方のほとんどの語が入ってしまう。表5で辞書Aの重要語彙が辞書Cに含まれる割合は約95%、表7で辞書A, Cの重要語彙が辞書Eに含まれる割合は98%以上にもなる。

辞書と頻度表との比較では、以上のような傾向は必ずしも当てはまらない。たとえば、表7では、DeReWoは重要語が辞書C, Dより1000語以上多いにもかかわらず、一致語はこれらより約800語少ない。表5では辞書Dより890語、表6では辞書Cよりも645語少ない。しかし、DeReWoは頻度表JTと比較した場合は、一致語が多くなる。表8で、JTとをもって一致数が高いのはDeReWoで、重要語が約300多い辞書Eと比べても、600以上も高い。また、JTは辞書C, Dよりも1000語以上重要語が少ないが、表8のDeReWoとの比較では、一致語数は両辞書を上回る。一致率は96.8%に達し、JTの重要語はほとんどがDeReWoに含まれていることになる。⁶⁾

その他、以下のような特徴がみられる。

- ・ 辞書Bの方が辞書Aよりも頻度表と相対的に一致する程度が高い。辞書Bは重要語数が辞書Aより約330語多いが、表8でJTとの一致語はそれ以上に多く、辞書Aを約540語上回る。また、表9のように、DeReWoとの一致語も辞書Aより約480語も多い。黒田（2016）では、辞書Bは頻度表との一致率が高いことを指摘したが、本調査でも同様の傾向がみられる。⁷⁾
- ・ 辞書Dは重要語選定に頻度表を利用したとしているが、それでも、DeReWoとよりは辞書Cとの方が、一致語が多い。表6で、辞書CはDeReWoより1400以上重要語が少ないが、辞書Dとの一致語はDeReWoより600以上も多くなる。ただし、辞書Dは頻度表を利用しただけあり、頻度表と一致する語は相対的に多い。表9で、辞書Dは辞書Cより255語（5%増）重要語が多いが、DeReWoとの一致語数も、増分のほとんどである245語（7%増）、辞書Cよりも多くなる。もっとも、JTとの一致度はさほど辞書Cと変わらないようである。表8で、JTとの一致については、重要語が辞書Cより増えた分（5%）だけ、一致語も多くなる（161語、5%増し）。

以上をまとめると、各独和辞典がカバーしている重要語彙の範囲は、完全に重なる部分はそ

6) 今道（2009）でも、頻度表については、規模、種類、処理方法等の違いを超え、統計的にも高い相関性を有しているとしている。

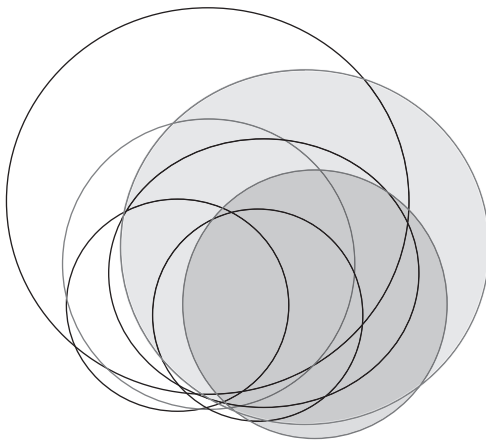
7) 辞書B自身は重要語の選定基準については明らかにしておらず、頻度表についても言及していない。

それほど大きくないながらも、部分的に重なるところは相当あり、サイズが大きい重要語彙はより小さい方にある語を大体含み、一部独自の重要語を残しているということになる。また、頻度表は独和辞典と重要語彙のずれが比較的大きい。2つの頻度表に共通する語は多く、重要語彙サイズの大きい DeReWo は JT の重要語をほとんど含んでいる。

なお、独和の中でも、辞書 A, C, E の間は、 $A \subseteq C \subseteq E$ の包含関係がほぼ成り立ち、辞書 B と辞書 D は同クラスの独和とはカバーする部分がややずれて、頻度表との重なりが比較的大きい。

重要語彙の重なり具合をイメージ化すると、次の図のようなになる。色のある部分は頻度表の重要語彙である。

図：重要語彙の重なりイメージ



4. 最後に

2000 語代半ばから 7000 語近くまでの重要語彙を扱ってきた。独和辞典の重要語彙は基本的には大が小を含み、一定の範囲内に収まるということであれば、各辞典の重要語彙の差異は、その範囲の中で、どの語をどのランクに位置づけているかという違いとなる。選択の仕方はどこか同質的でありあまり差がないように思われる。⁸⁾ 頻度表を利用した（とみられる）辞書も、そ

8) 独和辞典の重要語彙が似てくるのは、1 つには他の辞書あるいは語彙集の重要語選定を参考にしたためということが考えられる。他の辞書、語彙集を参考に語を選定するのはよく採られる方法とされる。Okamura/Lange/Scharloth(2012) は、基礎語彙の選択方法を 3 分類し、その 1 つにドイツ語の辞書や語彙集の共通部分を取り出す方法を挙げている。石川／佐藤 (1996: 58ff.) は、基礎語彙リストを作成するに当たって、実際に独和辞典で重要語に選定されている語を利用したことを明らかにしている。また、岩崎 (2012: 47) は、過去 30 年ほどに日本で出されたドイツ語の基礎語彙集の多くが既存の複数の学習辞書から重要単語の共通部分を抜き出して利用していると述べている。

れほど他の独和辞典との差異が大きいわけではない。⁹⁾ それに対して、頻度表の重要語彙は独和辞典の重要語彙と重なる部分が少なく、頻度という基準は独和辞典の選定の仕方とは性格をかなり異にしていることがわかる。

今後は独和辞典、頻度表それぞれの重要語彙に含まれる語の特徴を明らかにしつつ、独和辞典における重要語指定のあり方について考えていきたい。¹⁰⁾

引用文献

- 石川克知／佐藤俊一（1996）：「基礎語彙リスト」石川克知／佐藤俊一編『ドイツ語基礎語彙研究』北海道大学言語文化部研究報告書 8, 57-101.
- 今道晴彦（2009）：「ドイツ語教育における重要語彙選定の現状と課題」日本独文学会ドイツ語教育部会『ドイツ語教育』第 14 号, 40-47.
- 岩崎克己（2012）：「日本の DaF におけるドイツ語基本語彙へのアプローチ」岡村三郎他編『ドイツ語基本語彙——辞書学的、外国語教授法的観点から』日本独文学会研究叢書 88, 45-66.
- 黒田 廉（2015）：「独和辞典の重要語指定と語彙頻度表（1）」『富山大学人文学部紀要』第 63 号, 299-311.
- 黒田 廉（2016）：「独和辞典の重要語指定と頻度」日本独文学会北陸支部『ドイツ語文化圏研究』第 13 号, 1-20.
- 黒田 廉（2018）：「学習辞典における重要語とは？——ドイツ語の場合——」富山大学人文学部 編『人文知のカレイドスコープ』富山大学人文学部叢書 1 桂書房, 107-116.
- Okamura, S./Lange, W./Scharloth, J. (2012): Methoden der Bestimmung des Kernwortschatzes Deutsch. 岡村三郎他編『ドイツ語基本語彙——辞書学的、外国語教授法的観点から』日本独文学会研究叢書 88, 29-44.

9) 黒田（2016: 14f.）は、辞書 B, D も、頻度表で欠落しがちな、具体的・日常的な語彙、学校関係の語彙を補うなど、頻度をそのまま取り入れたのではないことを指摘している。

10) 辞書ならではの重要語選定の問題については黒田（2018）参照。